

震災からの復興と 新たなまちづくりに参加

(宮城県・女川町)

「東日本大震災による大きな打撃を受けた地域ですが、内外からの復興援助を得ながら、官民一体で町の立て直しをしてきた女川町。2015年にオープンした『女川フューチャーセンターCamass』は、町内外の人々が一緒にまちづくりを考える拠点になっています。語り部ガイドと町を歩きながら、これまでの歴史と今、未来の話をお聞かせいたします。(児玉さん)。復興従事者の長期宿泊施設だったトレーラーハウスのホテル「エルファロ」は、個室独立型なので家族でゆっくり滞在できる。親子で未来のまちづくりに一緒に関わってみよう。

ワークスポット



「Camass」は有料のワークキングスペース、無料の多目的スペースや会議室も備えている。

語り部ガイド
(一般社団法人 女川町観光協会)
参加費:1組5000円〜、要相談

ジオパークで日本列島形成のロマンを探る

(新潟県・糸魚川市)

2009年、日本で初めてユネスコの世界ジオパークに認定された「石のまち」糸魚川市。地質や自然、歴史、文化など「地域の遺産」を消滅させないよう守りながら活用し、持続可能な地域発展を目指すのがジオパークだ。「市内には、翡翠(ひすい)、フォッサマグナ、親不知など24の見どころが点在します。まずはフォッサマグナミュージアムに行き、糸魚川ジオパークの特徴を知ったうえで、気になるところを巡るのがいいですね。化石や翡翠探しが体験できる場所もあり深く体感しながら学べるでしょう。(児玉さん)。温泉も多く、長期滞在でも過ごしやすい。

ワークスポット



「親不知交流センター」には、海の見えるワークスペース(レストラン兼火)も完備。地元の新鮮な魚介類も味わえる。

フォッサマグナミュージアム
開館時間:9時~16時30分
休館日:12月~2月の月曜、
祝日の翌日、年末年始
入館料:高校生以下無料、大人500円

カヌーやトレッキング、 多くのゲストハウスも

(北海道・上川郡東川町)

北海道のほぼ中央に位置する東川町。大雪山連峰「旭岳」の麓にあり、地下に浸透した雪解け水を生活用水にしているため、道内で唯一、公共水道のない町でもある。廃校となった小学校の建物を増改築した複合施設は、図書スペースやワークスペース、宿泊施設など今や町内外の交流の中心の場になっている。「国立公園の区域でもあるので、大自然でのカヌーやトレッキングなどのアクティビティも充実。旭山動物園や富良野、美瑛といった観光スポットにも日帰り足を運べるので、長期滞在でも飽きることがないでしょう。(児玉さん)。体験移住にも積極的で、子育て支援も充実。



廃校を活用した複合施設「せんとびゅあ」には、コミュニティカフェからイベントホール、ギャラリー、キッチン、ワークスペースまで!

ワークスポット



親子も旅の成果をお持ち帰り!

ワーケーションスポット 5

ワーケーション・プランナー
児玉真依子さん



親子でのワーケーション体験ツアーを企画する「親子deワーケーション」共同代表。日本ワーケーション協会が認定する「ワーケーションコンシェルジュ」も務める。ワーケーションとは、Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた、新しい働き方。そこに子供のEducation(教育)の要素も加えた。活動の拠点は、中高時代のヨーロッパ

を暮らし、「現地で、1週間~1カ月のバカンスがある生活を身近で見てきました。家族で一緒にのんびりと地方の土地に寄り添い過ごしたい方は、仕事にも家庭にも好影響と実感しました。地方ならではの自然体験を子供に提供し、地方活性化にもつなげていく。「親、子供、地方にとって「三方良し」のワーケーションを広めたい!」

世界自然遺産登録間近! やんばるの魅力は奥深い

(沖縄県・本島北部)

今年、奄美大島、徳之島、西表島などとともに世界自然遺産に登録間近と注目を集めているのが、沖縄本島北部のやんばる地域。「飛ばない鳥といわれる、絶滅危惧種のヤンバルクイナをはじめ、この土地にしか生息しない植物や昆虫が多く存在します。暗くなってから亜熱帯特有のシダ植物が印象的なやんばる国立公園の森を歩くツアーでは、ガイドの案内で夜行動物が見られ、親子でドキドキする夜の冒険ができるでしょう。沖縄はワーク

ワークスポット



スポットも親子でできるアクティビティも豊富です。(児玉さん)

宿泊施設「カヌチャリゾート」にはワークキングスペースがあり、有料の託児サービスもある。



Endemic Garden H(やんばるツアーズ)

「森林公園ナイトツアー」

参加費:未就学児無料、小学生2500円、高校生以上5000円 所要時間:3時間程度

但馬牛を通して 食のトレーサビリティを知る

(兵庫県・新温泉町)

和牛肉の最高峰として世界に知られる神戸ビーフの素牛(もとうし)であり、地元を代表する「但馬牛(たじまうし)」。明治時代から100年以上にわたり血統を守り、「もしも但馬牛がいなかったら今の日本の和牛は存在しないといわれるほど、全国の和牛改良に貢献。世界的なブランドをつくってきた歴史や牛の特徴が学べる日本で唯一の体験型博物館がある。「食のトレーサビリティ」を、牛を通して学べる施設です。さらに併設の牧場公園では、実際に動物と触れ合うだけでなく、そば打ちやソーセージ、ピザ作りなどの農産物加工体験もできます。(児玉さん)



但馬牛博物館
(兵庫県立但馬牧場公園内)
開館時間:9時~17時
休館日:木曜 入館:無料

ワークスポット



ログハウス「カナダ」は、宿泊もワークキングスペースとしても活用できる。